

【評定(達成度)の目安】

達成度	指 標
A	満足できる
B	どちらかというと満足できる
C	どちらかといえば課題がある
D	課題がある

《校訓》 明朗・闊達 自主・力行

《教育目標》

- う 打ち出す力 挑戦する生徒
- ち 智恵を出し合い心耕す生徒
- で 伝統を大切に地域を愛する生徒

《学校教育の基本》

- 時代を生き抜く力を育む
- 子どもが安心して学ぶことのできる環境を整える
- 教育組織を改革する
- 社会全体で子どもを育てる

大項目	中項目	小項目	自己評価			学校関係者評価		今後の学校改善に向けて					
			小項目評価	中項目評価	現 況	中項目評価	意見、提言等						
基礎・基本の徹底と個性を伸ばす創意ある教育の推進	1	主体的・対話的で深い学び	1	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・支持的風土に関して、方針として取り入れたので、意識して具体的に取組んだりする教職員が増えた。 ・授業研修会を開くことによって授業の改善の促進の一助となったと思う。ただ、じっくり研究できるはずだった夏季休業中の研修会が中止になってしまったため、そこで行う予定だったことが取組めなかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・支持的風土を育てる集団づくりに意識的に取組んでおられることは素晴らしいので、是非継続していただきたい。 ・コロナ禍による夏季休業の研修会ができなかったことについては仕方がないと思う。その他についてはしっかりと実施されていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支持的風土に関して、意識して具体的に取組む教職員が増えているので、継続したい。 ・教職員で足並みを揃えて取組んでいく方針については、年度当初に共有する。 				
			2	A						A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内での生活道徳のみでなく、通学ルールの遵守など、校外での生活ルールの意識を醸成することも必要。 ・情報溢れるネット社会で正しく判断できるよう、特にネット上のモラルを実例を交えて指導してほしい。 ・学校全体で道徳の授業に取り組んだことは大きな評価。今後は、保護者や地域の方への授業公開を望みます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任以外の教職員による道徳の取組を継続する。 ・学年の様子や行事をふまえた教材を選択する。 ・校内研修部会と協力し、道徳の授業の公開や研究授業の機会を設け、学校全体として道徳教育に取り組む体制を整える。
			3	A									
	2	道徳教育	4	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教科化に対応して、教科書に準拠し、しっかりと授業を行うことができた。若手教員に対し授業のアドバイスを行うなど、教員間で意識の共有ができていた。 ・2学期からは、担任以外の教職員による道徳を行い、学校全体で道徳の授業に取り組むことができた。 ・コロナ禍において、例年行っている講師を招いての研修ができておらず、道徳教育に関する校内研修の機会が失われている。 ・令和3年度は学校公開としての授業参観の実施が難しかったため、教員間だけでなく、保護者・地域への授業公開ができなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内での生活道徳のみでなく、通学ルールの遵守など、校外での生活ルールの意識を醸成することも必要。 ・情報溢れるネット社会で正しく判断できるよう、特にネット上のモラルを実例を交えて指導してほしい。 ・学校全体で道徳の授業に取り組んだことは大きな評価。今後は、保護者や地域の方への授業公開を望みます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任以外の教職員による道徳の取組を継続する。 ・学年の様子や行事をふまえた教材を選択する。 ・校内研修部会と協力し、道徳の授業の公開や研究授業の機会を設け、学校全体として道徳教育に取り組む体制を整える。 				
			5	A									
			6	C									
	3	体力づくり	7	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度同様、体力の低下が危惧されたため、授業での準備体操だけでなく、体作り運動の時間を例年より増やすなど工夫し、筋力トレーニングなど体力向上への取組を行った。 ・口頭の説明だけでなく、ホワイトボードを活用することで、授業の「めあて」や「見通し」を理解できるように努めた。また、各単元でiPadを使用することで、生徒は自分の動いている姿や見本の姿と見比べながら学習に取り組むことができた。 ・多くの生徒が体育の授業に意欲的に取り組み、グループ学習などを通じて他の生徒と意見を交流するなど、「学び合い」活動を活発に行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、体力低下も心配するところではあるが、体づくりの運動の時間を増やされるなど、できることを工夫してやっているところに効果を感じる。 ・コロナの影響で運動の機会が制限され、体力低下が心配である。今後は、ICTも活用しながら「学び合い」活動を活発に進めていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケガや事故を起こさないため、教師が見守り、安全確認を行うだけでなく、起こりうる危険について生徒に事前に伝え、活動の中で危険がないかを生徒自身が確認しながら活動できるようにする。 ・活動時間を多く取り入れ、基礎体力の向上につなげる。 ・二人一組やグループ活動を多く取り入れ、「学び合い学習」をさらに活発なものとする。 ・運動が苦手な生徒に対して、レベルにあった課題の設定をスモールステップで行っていく必要がある。 ・ICT教材を効果的に活用し、生徒の理解を促す一助とする。 				
			8	A									
			9	A									
	4	体験活動	10	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から、総合的な学習の時間や特別活動の内容にも影響がある中、生徒の学びの充実を図り、工夫して計画・実施することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫しながら取り組んでくださるご苦勞もあつたと思います。また、子どもの興味にあつた話をキャリア学習で聞けたら…と思う。職場体験が実施できることを願っている。 ・コロナウイルス感染防止のため、体験活動がやりにくい中、内容を工夫して実施できたことに、先生たちの思いが感じられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に、総合的な学習の時間や特別活動を通してどのような力をつけたいか、そのために必要な学習は何かを学年・学校全体でさらに考え、効果的な学習をすすめていきたい。 				
			11	A									
			12	C									
	5	読書活動	13	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝5分間、全校一斉読書活動を行うことができた。 ・読書活動を推進するため、選書会などを実施し、ニーズのある図書を学校図書館に多く配架することができた。また、各教科担当者へのアンケートを実施することで、授業で活用できる図書の充実を図ることができた。 ・文化委員会、司書教諭、図書ボランティアが連携して図書館の運営と環境整備を行うことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の読書活動は素晴らしいと思います。選書会の実施も素晴らしい。 ・図書館が充実していて、打出中の自慢の一つ。 ・図書室内の装飾など雰囲気が明るくなった。普段利用しない生徒が訪れる図書室を目指されることを望む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、全校一斉読書活動を行うため、時間帯の再考や、読書活動の意義について全教職員の理解を深めることが必要である。 ・各授業時間内での学校図書館の利用を進めていきたいが、iPadでの学習との関連性について考えていく必要がある。 ・各分野の蔵書数のバランスを考慮した図書の購入を行う。ただし、定められた蔵書数に対し数千冊単位で不足しており、そのための書架・保管場所の確保が今後の課題である。 ・学校図書館の活用や、市立図書館との連携について、教職員に周知徹底する。 				
			14	C									
	6	指導改善(組織的・計画的)	15	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学びを生み出す授業の進展」を校内研究のテーマとし、コロナ禍ではあるが感染防止対策を行った上で授業研究を行い、授業づくりについての理解を深めるなど、指導方法の工夫改善に向けて組織的に推進することができた。 ・若手教員を中心としたOJTでは、年間を通して「授業づくり」をテーマとした研修を実施し、若手教員の授業力の向上につながった。 ・生徒の学習意欲の向上に向けて、校務分掌の担当者がICT活用に関する研修をしたり、通信で情報を提供したりすることにより、教員が積極的に授業でタブレットを活用するようになった。 ・夏季休業中や定期テストの前に補充・質問教室を実施し、基礎学力の定着を図った。休校中は、メタモジで課題を配付したり、eライブラリの活用を促進するなど、学習保障をすすめた。 ・令和2年度までと同様に、テストの2日目を部活動停止にして成績処理の時間を確保したり、校務支援システムを活用して事務処理の効率化を行ったりしたが、コロナ禍による行事日程変更等により多忙を感じている教員もいる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に向けて組織的に取組まれている。今後もOJTを推進し、授業力向上につなげていただきたい。 ・教職員の能力向上については、マンネリ化しやすい職場環境においては積極的に行う必要はあるが、過剰労働には注意。 ・先生方が指導方法の工夫や改善に積極的に取組んでおられることが伝わってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的なICT活用について情報交換を行い、生徒の学習意欲の向上や個別最適化された学びにつなげる。 ・校支援の掲示板を毎日着実に確認することや会議資料を事前に目を通すことを全教職員で共通理解するむことで、打合せや会議の時間短縮を図るなど、教材研究や子どもと向き合う時間を確保するために、校務の効率化に努めているが、多忙化解消に向けて、さらなる業務の効率化が必要である。 				
			16	A									
			17	B									

大項目	中項目	小項目	自己評価			学校関係者評価		今後の学校改善に向けて		
			小項目評価	中項目評価	現況	中項目評価	意見、提言等			
2	地域に開かれた特色ある学校づくりの推進	育ちと学びを支える連携	① 家庭・地域との連携	18 保護者の子育てに対する積極的な支援ができた。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式や入学説明会等で、中学校の様子や取組について積極的に情報発信を行った。また、子育てに不安を持つ保護者の思いを聴き取り、SCや専門機関とつなげ対応をした。 ・防災担当と協力し、防災教育を実施した。また校内安全点検活動を実施した。 ・あいさつ運動など、保護者の方々や地域の方々の協力をいただき、生徒を地域全体で見守っていくことが出来た。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全な学校生活に最も大切な家庭・地域との連携が積極的に行われていると思います。 ・地域の方とあいさつ運動に取り組みられているので、安心・安全な学校づくりにつながっていると感じる。是非継続していただきたい。 ・子育て等の相談機械の発信は積極的にされていると思う。ただ、一歩踏み出せずにいる保護者も多いのでは。希望者のみの二者懇談があると利用したい親もいるかも。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに不安を抱えている保護者が多い点を踏まえ、教育相談や携帯安全教室の取組、SCによる支援に関する情報を積極的に発信し、家庭との連携の強化を図る。学期末保護者会では学年毎に内容を統一することを再確認して実施したい。 ・あいさつ運動やボランティアで図書館の運営、花植などに協力していただいている。学校に関わってくださることを、生徒にもさらに発信して、地域全体で見ているということをもっと発信したい。 ・防災教育として、地域で行われる自主防災活動への生徒の参加の可能性を模索していきたい。
			19 保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域の人材を活用することができた。	B						
			20 防災教育を推進し、安心・安全な学校づくりに努めることができた。	A						
		② 保幼小中の連携	21 子どもの校種間交流や教員の出前授業を実施することができた。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・打出サミットは、学区内の各校の取組を共有する等、リーダーの育成を目指し取り組んでいる。 ・打人教各部会の取組は、コロナ禍で担当者だけの活動となったが、保幼小中高連携として定着している。 ・小学校に出向き、授業参観や情報交流、出前授業等を実施し、連携を図った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中のつながりとして、情報交流や出前授業を実践されていることは成果になっていると思います。職場体験で、ぜひ幼稚園に来てもらい交流を図りたい。 ・コロナ禍において、オンラインで打出サミットに取り組んでいただきありがとうございました。今後も工夫してつながりをもちたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・打出サミットについては、取組の内容、共有の方法等を考える必要がある。 ・打人教の取組や、授業公開、担当者会を積極的に行って、各校の実践や校種間の情報交流を図っていくことは重要だと考える。保幼小中で連続した子どもの育ちにつなげていく。 	
		22 校種間の合同研修会(ブロック研等)に参加できた。	B							
		23 校種間の授業公開やカリキュラム研究ができた。	B							
	8	組織的体制の充実	① 生徒指導体制の充実	24 いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導への全校体制がとれた。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回の善行迷惑調査を生かし、生徒が相談しやすい環境作りを行っている。 ・規模を縮小した行事等でも、生徒会執行部などの生徒の気持ちを高め、クラスが団結できるように進めた。 ・常に報告・連絡・相談を行い、組織的な対応に努めている。 ・街頭補導パトロールなど、地域と協力して活動し、生徒を地域とともに見守っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導については、とても頑張っておられることを毎回感じている。今後も、生徒が相談しやすい環境や協力体制を作っていくてください。 ・日頃の校長先生のお話などから、「いじめや暴力は絶対に許さない」という先生方の思いが伝わってきた。また、そのための取組や日々の先生方の子どもたちへの関わりから、多くの子にとって安心できる場所になるように努めておられるように感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事、授業を通して生徒の自己肯定感を高め、学校の一員としての帰属感、充足感を高める。 ・生徒との日ごろの関わりを通して、学校、クラスにおける安心して生活できる生徒の居場所づくりを進めていく。 ・家庭や地域、関係機関との連携を密にとり、学校だけでなく、地域、家庭とともに生徒を育てていく環境を作る。
				25 生徒指導、教育相談体制を確立し組織的に推進することができた。	A					
				26 家庭・地域・関係機関との連携による指導を図ることができた。	A					
			② 特別支援教育の充実	27 保護者の悩みを聞く個別相談を実施し、作成した個別指導計画を活用することができた。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導計画の「目標」「評価」を共有することで、保護者との連携を密に行うことができた。 ・配慮の必要な生徒や学校生活への適応に支援を要する生徒について、関係機関からの助言をいただく機会を持った。 ・学校生活支援員の見立てや気づきを担任や教科担当と共有することにより、よりよい支援のあり方について考え、実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする生徒は増加傾向にあり、特性をふまえた関わり方が必要である。また、その保護者も悩みを抱えておられることを念頭に置き、ともに考えていく姿勢を大切にしたい。 ・支援を必要とする生徒について、適切な支援をすすめるため、専門家の見立ては必須である。関係機関との連携を深め、専門家のアドバイスを生かして支援したい。 ・合理的配慮について研修をすすめ、組織として支援する力をつける機会を設ける。 ・支援計画を全職員で共有し、教職員の意識をさらに高めたい。 	
28 組織的・計画的な特別支援教育の体制を確立することができた。	A									
29 関係機関と連携しながら相談活動を充実させることができた。	A									
9	学校満足度	30 生徒は学校に対して満足している。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果によれば、約87%の生徒、約90%の保護者が、学校生活を楽しいと評価している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・担任以外の先生とも関係ができている姿を見ると、学年全体で子どもたちを見守ってくださっていると安心感を持つことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「楽しくない」と感じている13%の生徒に目を向けて、授業や生徒との関わり方を見直し、生徒や保護者との信頼関係の構築に努める。また、生徒が悩み事があったときに相談しやすい環境を整える。そして、生徒が安心して学校生活が楽しいと感じられるように、きめ細やかな取組を行う。 		